

48 岡田平蔵招魂碑

- ▶ 岡田平蔵は、江戸の日本橋品川町裏河岸の鋼鉄商 岡田平作の養子となり、明治4年(1871)、大坂に来て店を持ちました。米の売買や生糸の貿易を手がけましたが、しばらくして五代友厚とともに分析所を始めました。明治5年(1872)大蔵省は南部藩の借財処理に絡んで、尾花沢鉱山の稼行権(鉱業権)を盛岡の商人鍵屋茂兵衛から没収し、岡田平蔵に払い下げます。平蔵は鉱山を発掘し、金を溶解する事業を行い、大金を得ます。鉱業権はさらに数人の経営者の手を経て、明治22年(1889)岩崎家にわたり、これ以降閉山までの約90年の間、三菱の経営により鉱山歴史を通じて最大のピークを飾ることになります。岡田平蔵は、明治7年(1874)に40歳で亡くなります。



尾花沢鉱山溶解場

49 皆吉爽雨(みなよしそう)句碑

- ▶ 刻々に大秋晴となる如しと記された句碑です。



50 二の丸一番櫓

- ▶ 重要文化財に指定されています。
寛永5年(1628)に創建、寛文8年(1668)に大改造され、現在に至ります。



51 陸軍刑務所跡

- ▶ 軍法会議で服役することになった軍人の刑務所がここにありました。
多くの反戦川柳を詠んだ鶴 彬(つるあきら)が約2年収容されていました。



52 蓮如上人碑



53 蓮如上人袈裟懸の松

